
平成26年度第2四半期 決算説明会資料

平成26年11月5日

日新製鋼株式会社

当社の状況

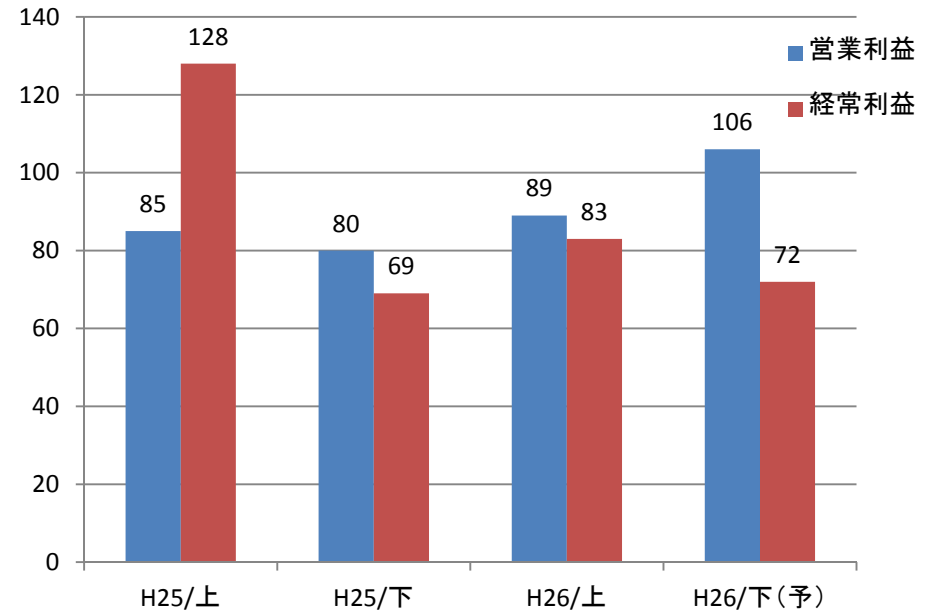


業績の状況

平成26年度の状況

- ✓ 国内は消費増税による駆け込み需要の反動等はあるものの、鋼材需要は堅調に推移しており、今後も継続することを見込む
- ✓ アジアでの鋼材供給過剰状態が続くなか、中国の成長鈍化もあり、海外マーケットは厳しい状態が継続
- ✓ 平成26年度の業績予想は売上高は増収（6,170億円 対前年度406億円増収）営業利益は増益（195億円 対前年度30億円増益）を達成する見込み

営業利益・経常利益推移（億円）



	H25年度			H26年度		
	上期	下期	通期	上期	下期(予想)	通期
売上高	2,703	3,061	5,764	3,108	3,062	6,170
営業利益	85	80	165	89	106	195
経常利益	128	69	197	83	72	155
うちステンレス	65	5	70	10	15	25

24号中計の進捗状況について(1)

I. 世界と戦える収益体質の追求

◇ 統合シナジーの最大化

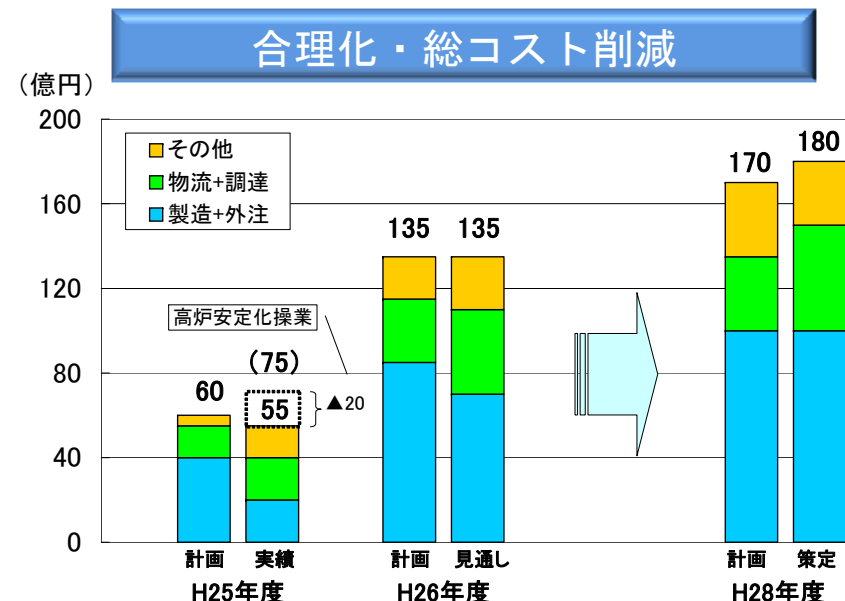
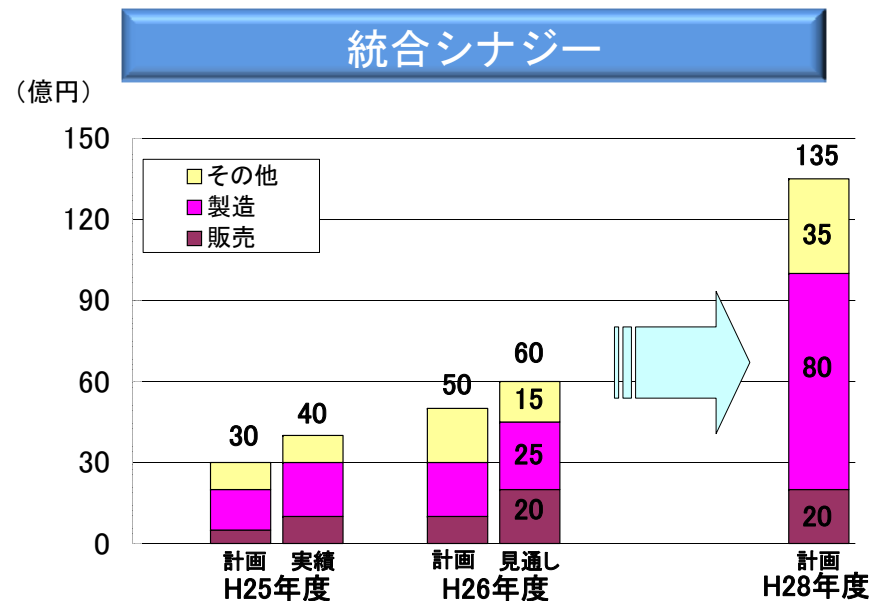
- ・平成26年度は当初計画を約10億円上回る60億円(うち販売20億円、製造25億円、その他15億円)を創出
- ・更なる早期化・最大化を目指し、シナジー最大化委員会で追加項目を検討中

◇ 合理化・総コスト削減プロジェクトの進展

- ・平成26年度は当初計画なみの見通し
- ・平成28年度で180億円の合理化・総コスト削減を目指す計画を策定(当初計画:170億円)

◇ IT関連の整備

- ・日新製鋼グループで使用するPCのシンクライアント化を推進



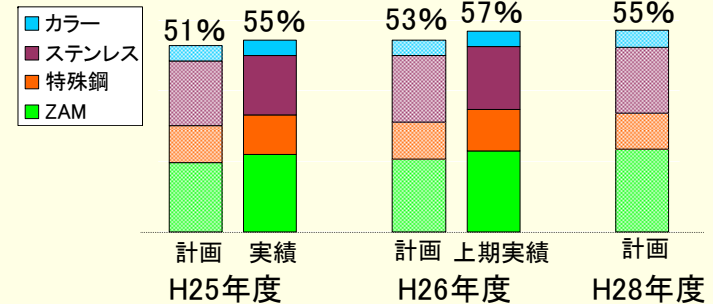
24号中計の進捗状況について(2)

II. コア製品戦略と商品開発の推進

◇ コア製品比率

- ・ 中計H26年度 53% ⇒ 57% (H26年度上期受注ベース)
- ・ ZAM、特殊鋼は当初計画を上回る水準を達成
- ・ カラーは概ね当初計画どおり推移
- ・ ステンレスは収益重視の方針継続等により数量ベースでは計画未達

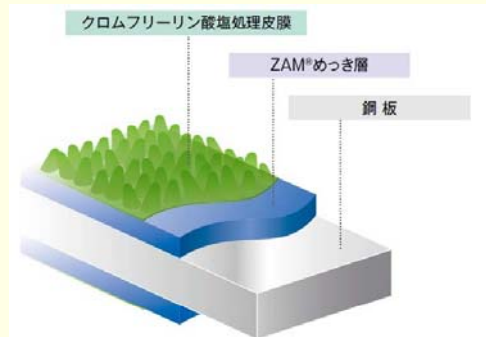
[コア製品比率(数量ベース)]



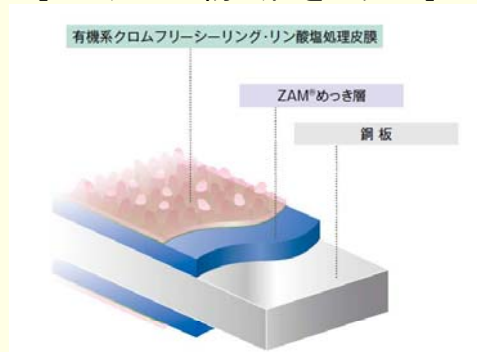
◇ コア製品の多層化

- ・ 機能性後処理・塗膜 : 新たな機能と耐久性をプラスする「ZAM+(ザムプラス)」

[ZP処理: “塗装性・高耐食性をプラス”]



[ZPG処理: “防眩性をプラス”]



[用途例: 遮音壁]



◇ グループ一体での川下戦略の展開

- ・ グループ内経営統合によるグループ一体での収益獲得モデルの構築 :
グループ内SP事業統合・分社化による日新製鋼ステンレス鋼管の発足 (H26.4.1)
- ・ グループ会社との有機的連携 : グラジェット(日新・原板 - 日総建・印刷/サイディング)等

24号中計の進捗状況について(3)

Ⅲ. グローバル事業体制の構築

◇ 中国銅めっき鋼板事業

- ・ 日新製鋼(南通)高科技鋼板有限公司 : 7月に開業式を開催

◇ 中国特殊鋼冷延事業

- ・ 浙江日新華新頓精密特殊鋼有限公司 : 11月に起工式を予定

[南通開業式]



Ⅳ. 新規事業の創出と市場展開

◇ 成長市場への取り組み

- ・ 特殊鋼高潔度鋼 : LF(平成27年度完工予定)による新用途開拓
- ・ 環境・新エネルギー分野などのニーズ捕捉 : レーザ溶接形鋼、等

◇ “お客様にうれしさ”を提供できる製品の開発・市場化

- ・ オリンピック需要と、さらにその先を見据えたニーズ開拓とソリューション提案の推進

24号中計の進捗状況について(4)

V. 強固な企業基盤の構築

◇ 安全・防災の徹底

- ・昨年来のトラブル(堺4TM火災、呉1高炉トラブル、衣浦CG火災事故)を受けての再発防止策の徹底
- ・トラブルの未然防止策の推進 : 設備関係費用の増額、個別対策の推進、等

VI. 中計の実現に向けた組織体制及び効率的な人財活用・育成

◇ グループ事業の再構築

- ・連結範囲の拡大 : 月星アート工業(株)、大阪ステンレスセンター(株)(H26.4~)
- ・中核事業の分社化 : 日新製鋼ステンレス鋼管(株)(H26.4~)

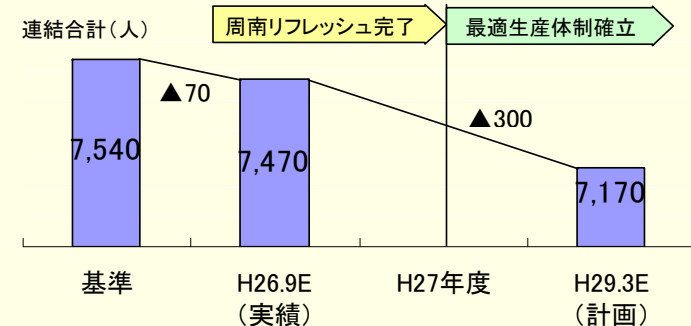
◇ 要員規模(構成)で世界と戦える体制へ

- ・「企画系スリム化委員会」「人材活用推進室」によるグループ全体での組織的な推進
- ・成長分野への人財シフト : 中国特殊鋼推進室の設置、等

[グループ就業人員]

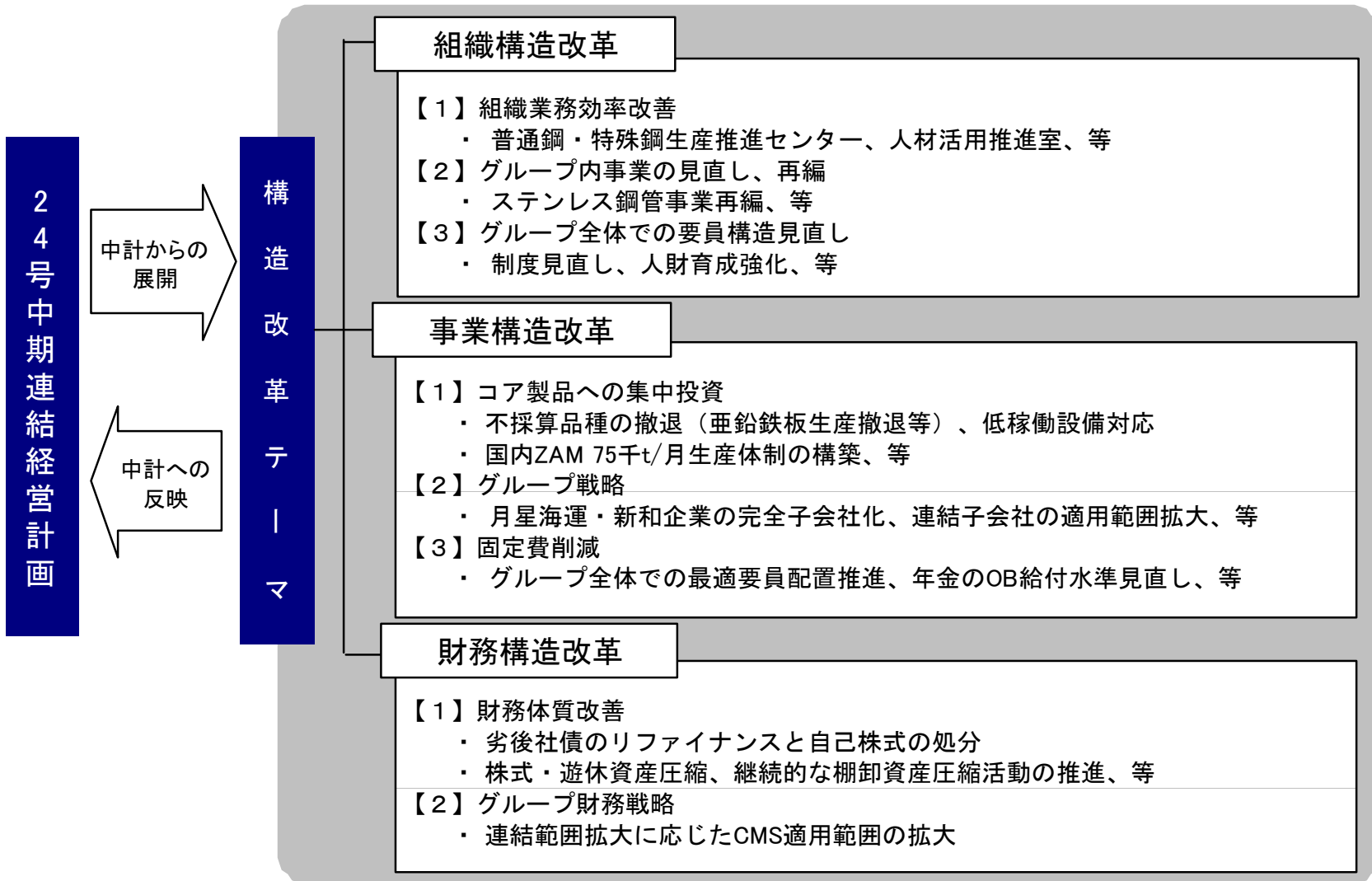
	基準 (H23年度末)	H26.9末		H28年度末	
		実績	対基準	計画	対基準
連結合計 ※	7,540	7,470	▲ 70	7,170	▲ 370

※ 当初計画に対する連結範囲拡大等の補正後就業人員ベース (年度末退職者のうち、再雇用者の調整後)



24号中計の進捗状況について(5)

構造改革の推進 ～全ての非効率と無駄を無くし、強靱な肉体をつくる～



資本政策・株主還元

資本政策

- ◇ 劣後社債(500億円)の早期償還と劣後ローン(400億円)による資金調達
- ◇ 自己株式の処分による資金調達(9.7百万株:92億円)



統合シナジーが本格化する次年度
以降の飛躍に向けた財務基盤強化

- * 純D/Eレシオ1.0以下の早期実現
- * 金利コスト低減による利益の増加
- * 自己資本増強による環境変動リスクへの対応力強化

連結貸借対照表

	中計(メイン)		実績 H26.9E
	H26年度	H28年度	
有利子負債	3,000	2,800	3,036
純資産	2,020	2,420	2,211
格付上の純D/Eレシオ	1.1	0.9	1.04

(金額: 億円)

株主還元: 安定配当の継続を堅持

- ・ 中間配当は遺憾ながら見送り
- ・ 期末配当は利益に応じた配当の実施という基本方針に基づき今後決定

【利益配分に関する基本方針】

連結業績に応じた適切な剰余金の配当を実施していくことを基本に、企業価値向上に向けた今後の事業展開に必要な内部留保の確保および今後の業績見通しを踏まえつつ、安定的な株主還元を実施

平成26年度
第2四半期決算の概要



平成26年度第2四半期決算

平成26年7-9月の概況

- ✓ 足元、国内市場は消費税増税後の反動減も見られるが、上期は自動車や非住宅分野など主要分野は総じて堅調
- ✓ 好調な内需と昨年度の設備トラブル影響からの回復もあり、生産は高い水準を維持。円安やニッケル原料価格高騰に対し、価格改善に努めた結果、前年同期比増収を達成
- ✓ ZAMは約7万トン/月レベルの高水準の販売を継続。特殊鋼も日系自動車部品メーカーの輸出好調もあり需給は逼迫
- ✓ エネルギーコスト上昇等に対し合理化・総コスト削減に努め、営業利益は増益を達成。経常利益については一過性要因の減少があり前年同期比減益
- ✓ ステンレスは店売り販売のもたつきを堅調な紐付き販売でカバー。原料価格高騰分の価格修正を推進するも、後半にかけ円安の影響もあり、マージンは若干の減少

平成26年度第2四半期諸元

		No	H26年度			H25年度 下期 (実績) d	H26年度 上期 (前回予想) e
			上期				
			4-6月 (実績) a	7-9月 (実績) b	(実績) c		
粗鋼生産量 (万トン)	普通鋼・特殊鋼	1	82	86	168	156	169
	ステンレス	2	20	19	39	39	39
	計	3	102	105	207	195	208
販売数量 (万トン)	普通鋼・特殊鋼	4	80	80	160	161	159
	ステンレス	5	15	17	32	32	33
	計	6	95	97	192	193	192
鋼材平均単価	(千円/トン)	7	124	130	127	124	128
輸出比率	(金額ベース, %)	8	17	18	17	17	18
輸出為替レート	(円/ドル)	9	102	104	103	102	102

差異		
① c-d	② b-a	③ c-e
12	4	▲ 1
0	▲ 1	0
12	3	▲ 1
▲ 1	0	1
0	2	▲ 1
▲ 1	2	0
3	6	▲ 1
0	1	▲ 1
1	2	1

平成26年度第2四半期決算

NISSHIN STEEL CO., LTD.

(億円)

	No	H26年度			H25年度	H26年度
		上期		(実績)		
		4-6月 (実績)	7-9月 (実績)		下期 (実績)	上期 (前回予想)
		a	b	c	d	e
売上高	1	1,510	1,598	3,108	3,061	3,130
営業利益	2	22	67	89	80	80
経常利益	普通鋼・特殊鋼	22	51	73	64	50
	ステンレス	▲ 10	20	10	5	20
	計	12	71	83	69	70
四半期純利益	6	0	52	52	86	45

差異		
① c-d	② b-a	③ c-e
47	88	▲ 22
9	45	9
9	29	23
5	30	▲ 10
14	59	13
▲ 34	52	7

在庫評価	普通鋼・特殊鋼	7	▲ 5	▲ 10	▲ 15	25	▲ 15
	ステンレス	8	5	20	25	10	25
	計	9	0	10	10	35	10

▲ 40	▲ 5	0
15	15	0
▲ 25	10	0

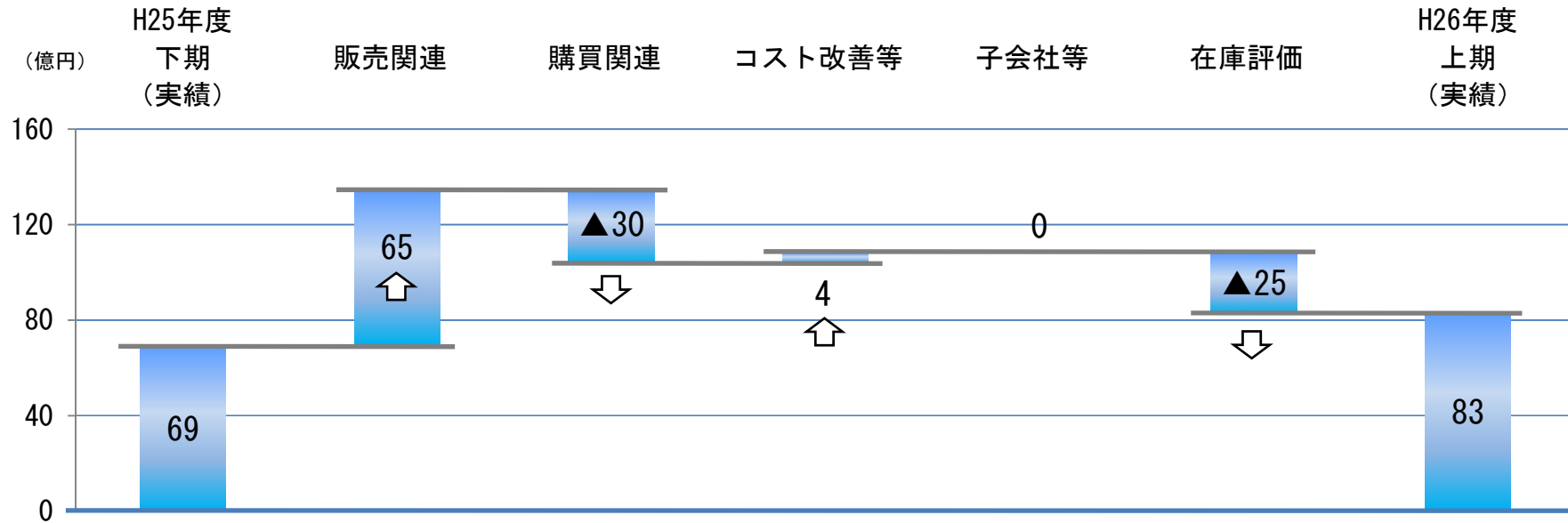
<実カベース>

経常利益	普通鋼・特殊鋼	10	27	61	88	39	65
	ステンレス	11	▲ 15	0	▲ 15	▲ 5	▲ 5
	計	12	12	61	73	34	60

49	34	23
▲ 10	15	▲ 10
39	49	13

経常利益差異内訳

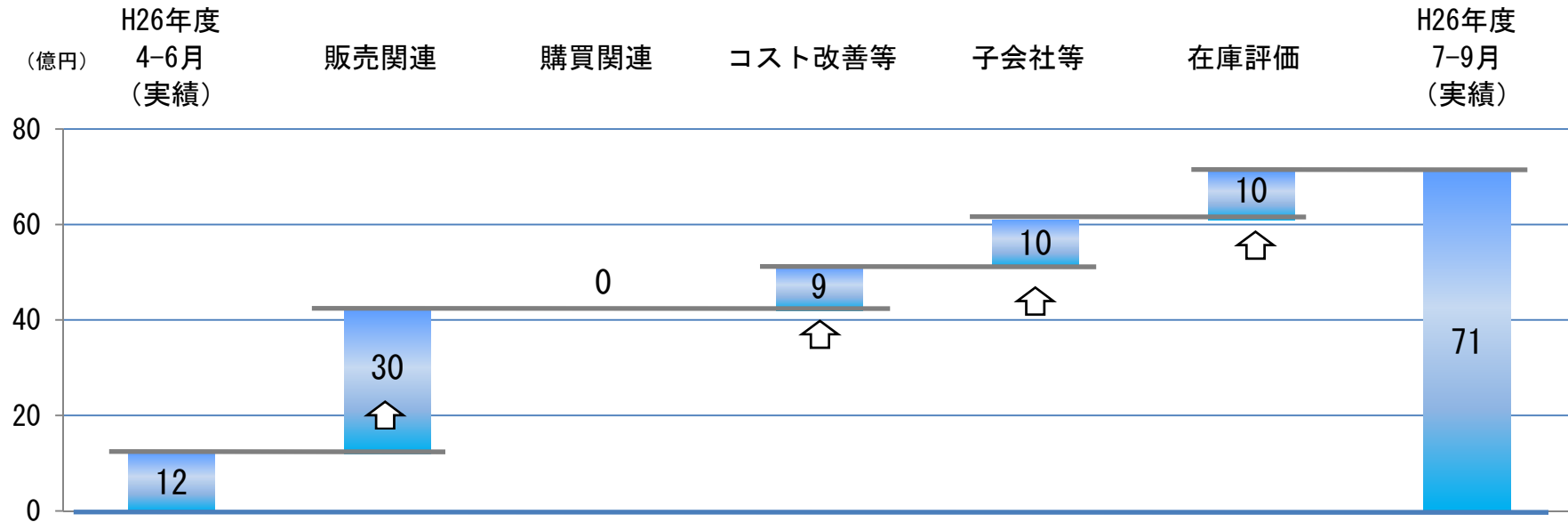
H25年度下期(実績):H26年度上期(実績)



		(億円)	(内ステンレス)
H25年度下期 (実績)		69	5
変動要因	販売関連	65	50
	購買関連	▲ 30	▲ 65
	コスト改善等	4	5
	子会社等	0	0
	在庫評価	▲ 25	15
計		14	5
H26年度上期 (実績)		83	10

経常利益差異内訳

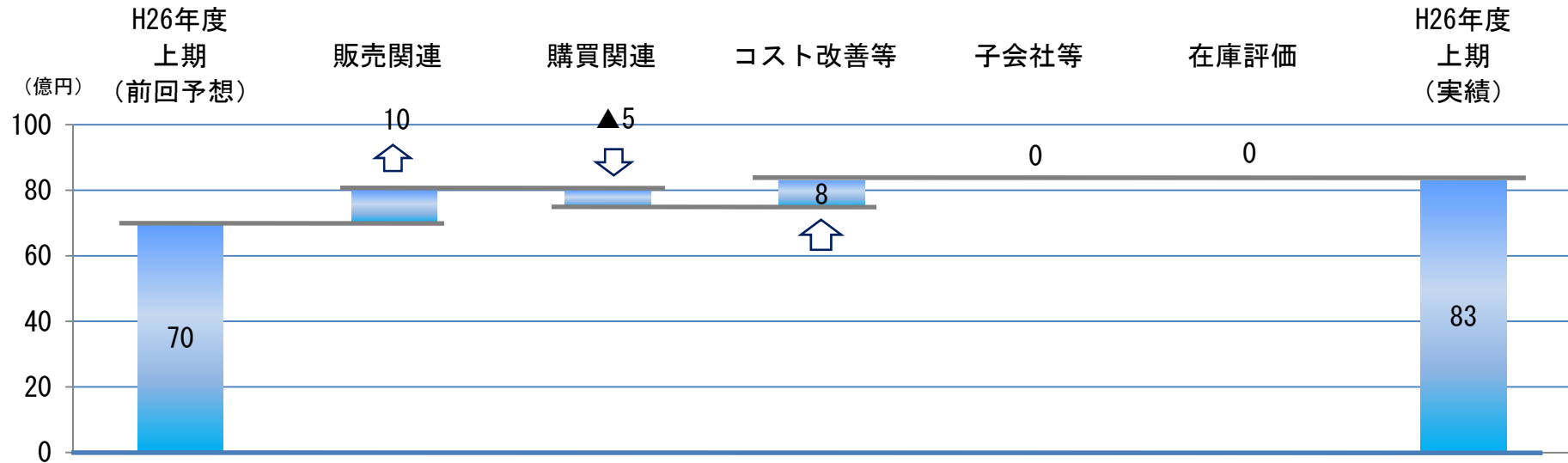
H26年度4-6月(実績):H26年度7-9月(実績)



H26年度4-6月 (実績)		(億円)	変動要因	(内ステンル)
H26年度4-6月 (実績)		12	変動要因	▲ 10
変動要因	販売関連	30	価格差 15、数量構成差 15	25
	購買関連	0	鉄鉱石 15、石炭 10、ニッケル原料▲20、輸入為替差▲5	▲ 20
	コスト改善等	9	合理化等	0
	子会社等	10	持分他	10
	在庫評価	10	0→10 (内ステンル 5→20)	15
計		59		30
H26年度7-9月 (実績)		71		20

経常利益差異内訳

H26年度上期(前回予想):H26年度上期(実績)



		(億円)	(内ステンル)
H26年度上期 (前回予想)		70	20
変動要因	販売関連	10	0
	購買関連	▲ 5	▲ 10
	コスト改善等	8	0
	子会社等	0	0
	在庫評価	0	0
計		13	▲ 10
H26年度上期 (実績)		83	10

貸借対照表 (H26年9月末)

(億円)

	対H26/3末		主な内訳
	金額	増減	
現預金	316	▲ 92	
売上債権	810	15	
たな卸資産	1,535	98	
その他流動資産	228	▲ 146	
有形・無形固定資産	2,727	47	償却▲122、取得 165
投資等	1,700	▲ 21	
資産合計	7,318	▲ 98	

有利子負債	3,036	▲ 199	
その他の負債	2,070	47	
負債合計	5,106	▲ 151	
資本金・資本剰余金	1,210	10	自己株式処分差益 10
利益剰余金	625	▲ 37	退職給付会計基準変更▲75、 四半期純利益 52、配当▲15
自己株式	▲ 5	82	自己株式処分 82
その他の包括利益累計額	296	▲ 6	
少数株主持分	84	3	
純資産合計	2,211	52	
負債・純資産合計	7,318	▲ 98	

平成26年度業績予想

平成26年度の見通し

- ✓ ステンレスは収益重視の方針を継続し輸出を抑制。住宅投資や個人消費など消費税増税の影響も踏まえ、前回発表から普通鋼、ステンレスとも数量減を織り込み減収
- ✓ 優れた後塗装性や防眩性を加えた新製品「ZAM+（プラス）」を投入。コア製品の多層化により新規需要を開拓し、さらなる拡販に取り組む
- ✓ 数量減、円安による為替差損などのマイナスに対し、受注構成の改善や合理化総コスト削減活動の推進により、収益は営業利益および経常利益とも前回発表から修正なし
- ✓ ステンレスは厳しい収益状況が続くが、引き続き販売価格の改善、合理化・総コスト削減活動、シナジー効果の最大化に取り組み、早期の収益回復を目指す

平成26年度業績予想諸元

		No	H26年度			H25年度	H26年度	差異	
			上期 (実績)	下期 (予想)	(予想)	(実績)	(前回予想)	①	②
			a	b	c	d	e	c-d	c-e
粗鋼生産量 (万トﾝ)	普通鋼・特殊鋼	1	168	165	333	318	332	15	1
	ステンレス	2	39	35	74	75	77	▲ 1	▲ 3
	計	3	207	200	407	393	409	14	▲ 2
販売数量 (万トﾝ)	普通鋼・特殊鋼	4	160	162	322	309	326	13	▲ 4
	ステンレス	5	32	29	61	60	65	1	▲ 4
	計	6	192	191	383	369	391	14	▲ 8

平成26年度業績予想

(億円)

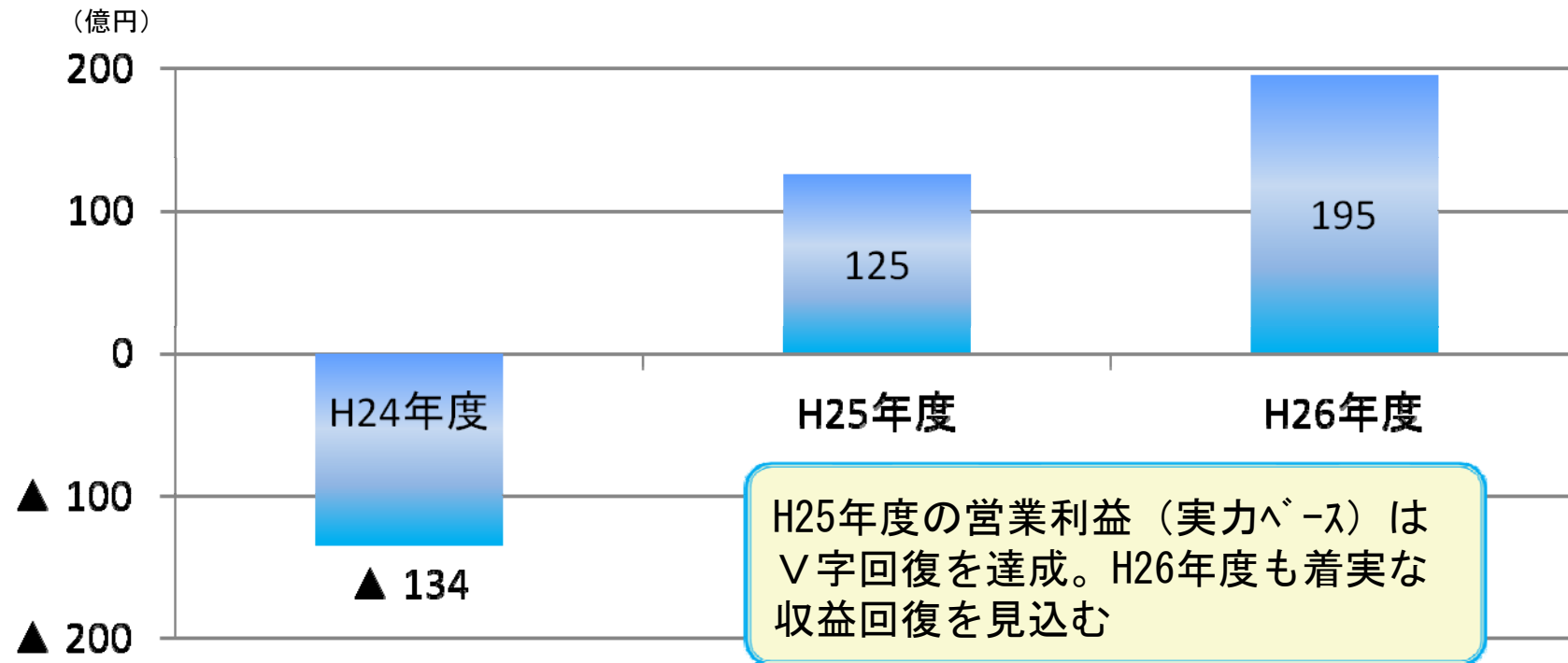
	No	H26年度			H25年度	H26年度	差異		
		上期 (実績)	下期 (予想)	(予想)	(実績)	(前回予想)	①	②	
		a	b	c	d	e	c-d	c-e	
売上高	1	3,108	3,062	6,170	5,764	6,380	406	▲ 210	
営業利益	2	89	106	195	165	195	30	0	
経常利益	普通鋼・特殊鋼	3	73	57	130	127	120	3	10
	ステンレス	4	10	15	25	70	35	▲ 45	▲ 10
	計	5	83	72	155	197	155	▲ 42	0
当期純利益	6	52	78	130	177	130	▲ 47	0	

在庫評価	普通鋼・特殊鋼	7	▲ 15	▲ 15	▲ 30	25	▲ 25	▲ 55	▲ 5
	ステンレス	8	25	5	30	15	35	15	▲ 5
	計	9	10	▲ 10	0	40	10	▲ 40	▲ 10

<実カベース>

経常利益	普通鋼・特殊鋼	10	88	72	160	102	145	58	15
	ステンレス	11	▲ 15	10	▲ 5	55	0	▲ 60	▲ 5
	計	12	73	82	155	157	145	▲ 2	10

営業利益推移(実力ベース)



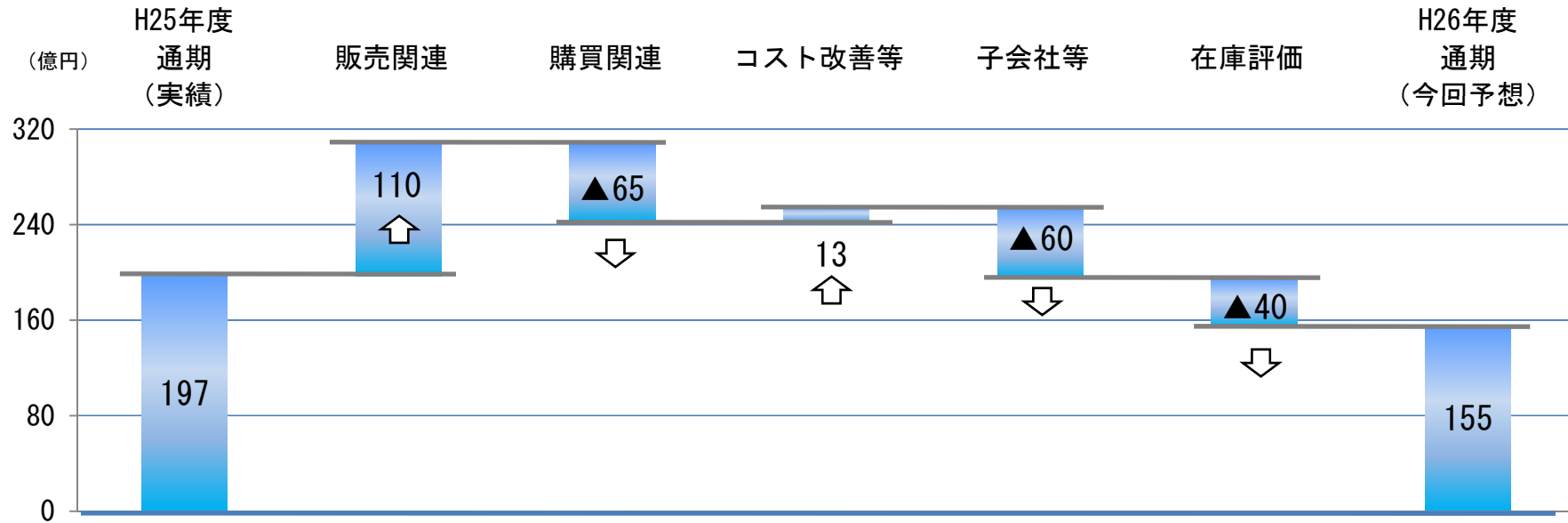
(単位：億円)

	H24年度 (実績)	H25年度 (実績)	H26年度 (予想)
営業利益	▲ 219	165	195
在庫評価	▲ 85	40	0
〃 (実力ベース) ※	▲ 134	125	195

※H24年度は日金工上期含む数値 (営業利益：▲51、在庫評価：▲5)

経常利益差異内訳

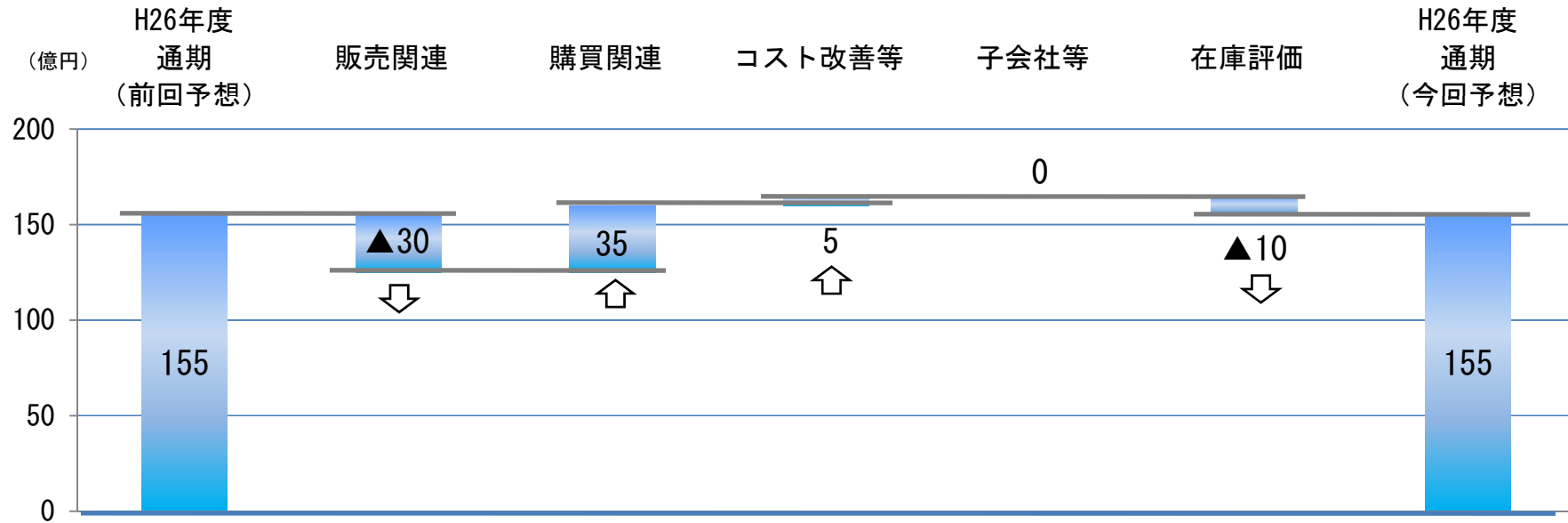
H25年度通期(実績):H26年度通期(今回予想)



H25年度通期 (実績)		197	変動要因	70
変動要因	販売関連	110	価格差 75、数量構成差 15、輸出為替差 20	135
	購買関連	▲ 65	鉄鉱石 110、石炭 65、ニッケル原料▲95、 輸入為替差▲125	▲ 145
	コスト改善等	13		10
	子会社等	▲ 60	海外連子他	▲ 60
	在庫評価	▲ 40	40→0 (内ステンレス 15→30)	15
計		▲ 42		▲ 45
H26年度通期 (今回予想)		155		25

経常利益差異内訳

H26年度通期(前回予想):H26年度通期(今回予想)



H26年度通期(前回予想)		155	変動要因	35
変動要因	販売関連	▲ 30	価格差▲30、数量構成差▲15、輸出為替差 15	▲ 15
	購買関連	35	鉄鉱石 45、ニッケル原料 20、輸入為替差▲30	10
	コスト改善等	5	合理化等	0
	子会社等	0		0
	在庫評価	▲ 10	10→0 (内ステンレス 35→30)	▲ 5
計		0		▲ 10
H26年度通期(今回予想)		155		25

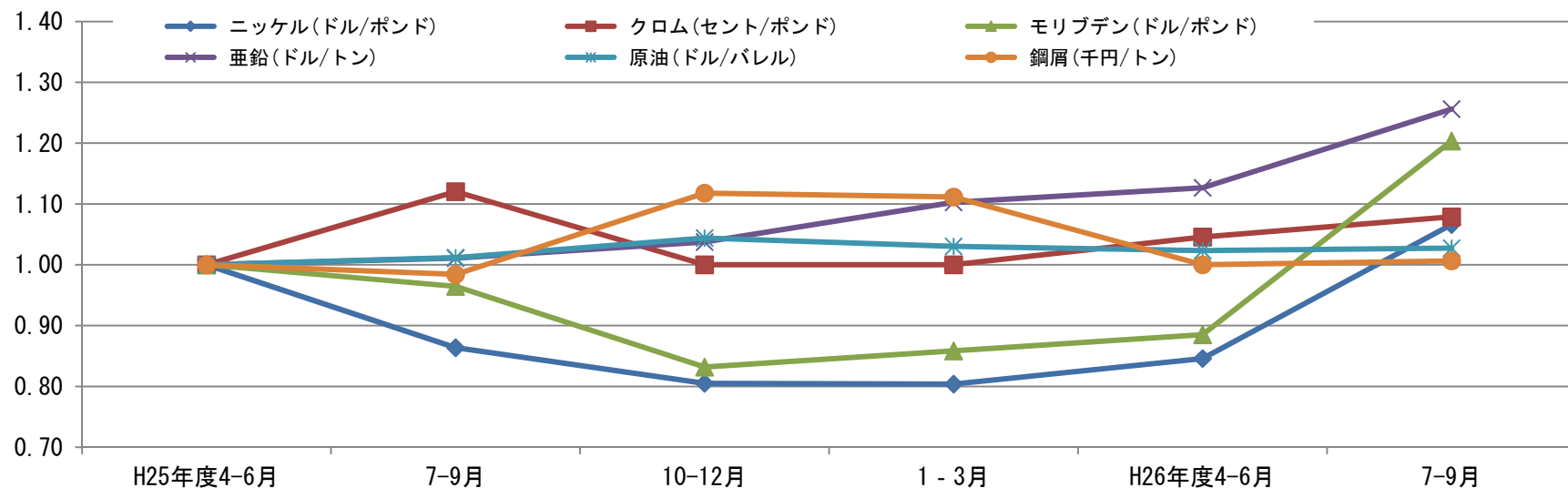
(ご参考)
主要データ



購買市況(適用ベース)

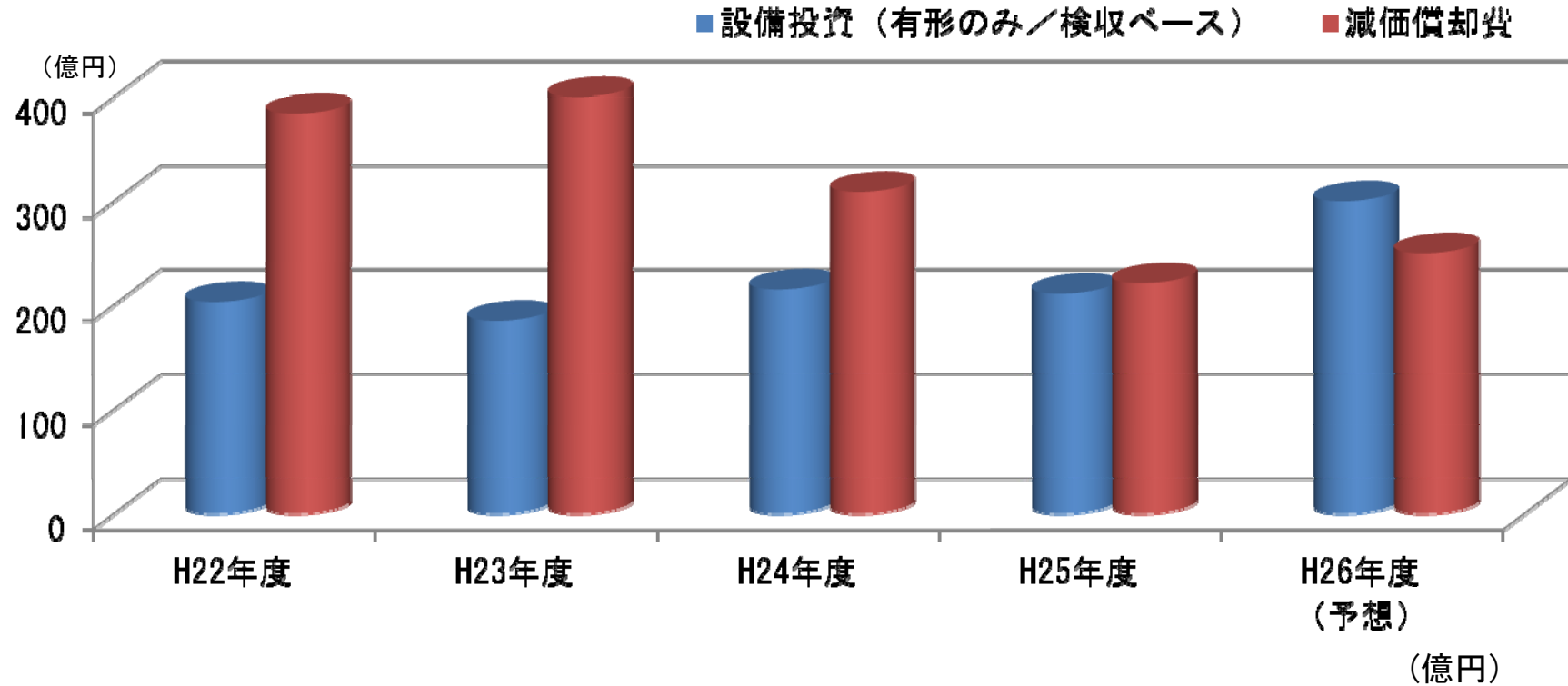
	H25年度							H26年度		
	上期			下期			通期 平均	上期		
	4-6月	7-9月	平均	10-12月	1-3月	平均		4-6月	7-9月	平均
ニッケル(ドル/ポンド)	7.85	6.78	7.32	6.32	6.31	6.32	6.82	6.64	8.37	7.51
クロム(セント/ポンド)	120.5	135.0	127.8	120.5	120.5	120.5	124.1	126.0	130.0	128.0
モリブデン(ドル/ポンド)	11.3	10.9	11.1	9.4	9.7	9.6	10.3	10.0	13.6	11.8
亜鉛(ドル/トン)	1,840	1,860	1,850	1,909	2,029	1,969	1,910	2,073	2,311	2,192
原油(ドル/バレル)	102.5	103.7	103.1	107.0	105.6	106.3	104.7	104.9	105.3	105.1
鋼屑(千円/トン)	31.4	30.9	31.2	35.1	34.9	35.0	33.1	31.4	31.6	31.5

購買市況の推移 (H25年度4-6月を1.00)



設備投資・減価償却費

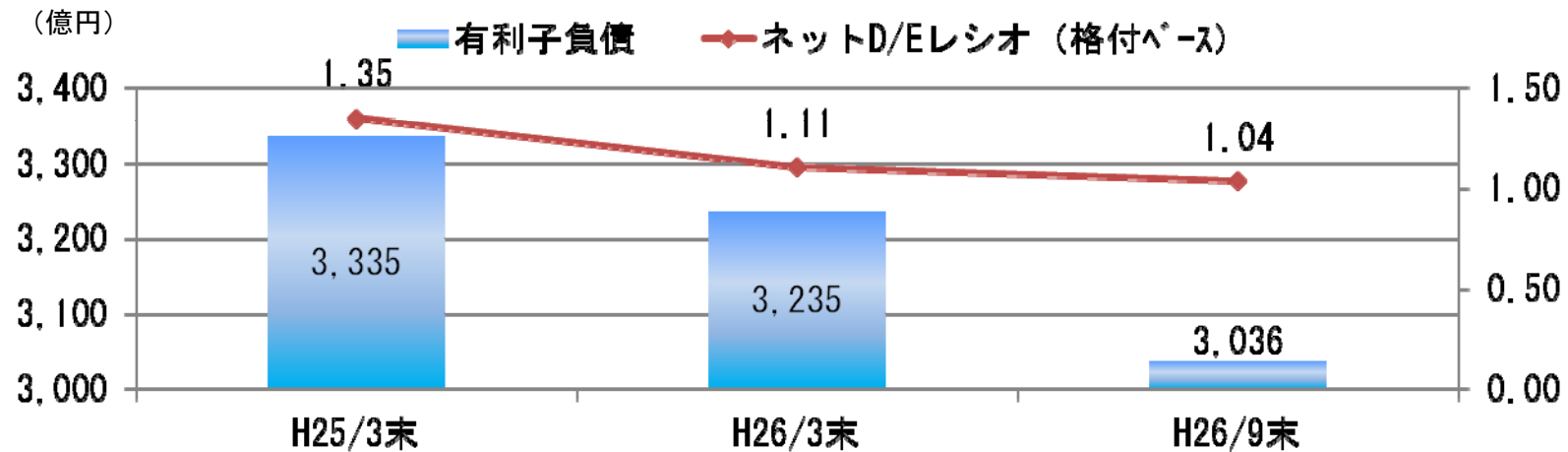
※H23年度以前は、日新製鋼連結



	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度 (予想)
設備投資	203	185	215	211	300
減価償却費	384	366	309	221	250

※設備投資額は有形のみ/検収ベース

有利子負債・ネットD/Eレシオ（格付けベース）



	H25/3末	H26/3末	H26/9末
手許預金 (億円)	432	408	316
有利子負債 (億円)	3,335	3,235	3,036
ネットD/Eレシオ	1.69	1.36	1.28
〃 (格付けベース) ※	1.35	1.11	1.04

※ 日本格付研究所の格付評価上、資本性が認められるハイブリッド証券
 （利払繰延条項・期限前償還条項付無担保社債<劣後特約付・適格機関投資家限定>）
 500億円について、その50%を資本とみなした場合のネットD/Eレシオ

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、平成26年11月4日に行った決算発表内容に基づき作成されており、本資料に含まれている当社の将来における計画、戦略、業績に関する見通しの記述については、当社が同日の段階で把握可能な情報から判断したもので、不確定要素を含んでおります。これらの見通し等は、内外の政治経済情勢、主要市場における需要動向の変動、諸制度の変更など様々な重要な要素により実際の業績と異なる結果となることがあります。

従いまして、本資料にのみ依拠して投資判断されますことはお控えくださいますよう、お願いいたします。また、本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関するお問い合わせ先

日新製鋼株式会社

総務部 広報・IRチーム

TEL : 03-3216-5566